

活動概要(2017年10月)

① 第2サイクル県農業局に対するジェンダー主流化研修の実施

第2サイクル対象県の農業局職員を対象に、EVAP 普及パッケージにおけるジェンダー主流化のための研修を実施した。地域や農家グループごとのジェンダー配慮に関連する社会状況が異なるため、本研修は 対象農家グループが選定された後のタイミング で実施し、演習では 具体的に対象農家グループの社会状況をイメージしながら 配慮策を検討した。その結果、農家グループまたは地域ごとに配慮策やその度合いが異なる 結果となった。研修の内容および演習を通じて普及員から出された主な農家グループ別のジェンダー配慮策は以下のとおりである。

EVAP 普及パッケージ実施におけるジェンダー主流化研修の内容

1. ジェンダー配慮の必要性:ジェンダーの概念、農業セクターにおける女性農民の役割の傾向とジェンダー配慮の必要性
2. EVAP-2におけるジェンダー主流化
 - EVAP-2 で達成すべきジェンダー主流化の目標
 - EVAP 普及パッケージ実施におけるジェンダー配慮の4つの視点:
 - i) 研修機会・農業インプットへのアクセス改善の視点
 - ii) 収益向上に結びつけるための家庭内労働生産性向上の視点
 - iii) 家庭内の意思決定への参加促進のための視点
 - iv) 地域コミュニティの理解醸成のための視点
 - EVAP 普及パッケージ実施におけるジェンダー配慮策の検討:
 - i) 第1サイクル農家グループにおけるジェンダー配慮策の事例紹介
 - ii) 第2サイクル農家グループに対するEVAP 普及パッケージにおけるジェンダー配慮策検討のための演習
3. ジェンダー分析ツールの紹介:Activity Profile、Daily Activity Calendar、Access to and Control of Resources
4. ジェンダー配慮の視点を踏まえた合同評価:内容およびスケジュール

1) カルキリヤ県農業局(2017/10/2)

■ Azab Farmers Extension Group(男性・野菜農家グループ)

- ・地域の女性農民に対しても活動を実施する場合、卸売市場や男性経営の小売店に女性農民だけで訪問をすることは慣習的に難しい。

■ Qalqilia Livestock Extension Group(男性・畜産農家グループ)

- ・対象農家グループのある地域では、羊飼育には、給餌や新生羊の世話などに女性農民の関与は大きい。そのため、技術研修の内容によっては、対象男性農家グループ以外にも、地域の女性農民を対象とする技術研修を実施したほうがよい。またその場合、家畜の世話があるために男女一緒に家を空けること、保守的な地域であるために男女同席することは難しく、女性農民のみを対象とするセッションを設ける必要がある。乳製品の売店に対しては、通常、女性農民が販売を行っていることが多いので問題はない。



2) トウルカレム県農業局(2017/10/3)

■ Baqa Al Sharqeah Farmers Group(男性・野菜農家グループ)

- ・地域的に女性農民の営農への関与は限定的である。地域の女性農民への活動実施については、農民グループに確認をする必要がある。

■ Saida Cooperative Association for Processing and Marketing of Rural Products(女性・農産加工農家グループ)

- ・プロジェクト対象として女性農家グループを選定した。ただし、男性農民



への営農への関与も大きいと、地域の男性農民に対しても技術研修を行うことも効果的である。保守的な地域ではないため、男女同席の研修は問題はない。対象女性農家グループは、これまで男性普及員との関わりも多く、男性普及員が担当することに特に問題はない。

- ・ Market Visit で女性農民のみで卸売市場を訪問することは特に問題はない。女性メンバー数名は養蜂に従事しているが、蜂蜜の販路が限定的であり、販路可能性の点からも Market Visit は効果があると考えられる。

3) ジェニン県農業局(2017/10/4)

■ Mithalon/Sanor Farmers Extension Group(男女混合・天水穀物農家グループ)

- ・ 男女混合のグループで、女性農民の農業活動への関与は大きく、特に移植、除草、収穫作業に従事している傾向がある。Awaerness Creation Tour や Market Visit では、男女一緒での訪問は問題ないと考える。ただし、移動手段は男女別々にした方がよい。卸売市場への訪問は女性農民にとって抵抗がある可能性がある。これらの点については、グループ側及び女性メンバーに確認する必要がある。
- ・ 研修での男女同席は問題はない。特に女性メンバーからの意見を引き出し、協議を促進するためには、i) 協議は男女別に小グループで行うこと、ii) 女性メンバーからの意見を聞き取ることを意識したファシリテーションを行うこと(女性メンバーを意識的に指名するなど)、iii) 男女の普及員をファシリテーターとして配置すること等が必要である。



■ Qabatiya Farmers Extension Group(男性・野菜農家グループ)

- ・ 女性の農業活動への関与は収穫作業のみと限定的である。対象地域の Qabatiya 東部はパレスチナの中でも特に保守的な地域であるため、男女同席での活動については特に留意が必要である。
- ・ ニュースレターや宿題方式等を採用するなど、女性農民を含む家族メンバーや地域への情報共有促進を図る必要がある。

② 第1サイクルの農家グループに対する Training and Technical Support(普及ステップ7)の実施

1) Al Badhan Mother's School Group(ナブルス県)

■ 農薬散布用スプレーの使用・メンテナンスに係る技術研修(2017/10/1)

内容: ①スプレーの原理、②使用目的に基づいたノズルの種類、③効率的な使用方法、④使用後の洗浄及びメンテナンスの方法、⑤スプレー使用の留意点、⑥スプレー操作方法の実習



参加者からの主なコメントは以下のとおりであった。

- ・ 「スプレーを他のメンバーと共有しているが、前の使用者が除草剤を使用している場合もあるので、使用前の洗浄の重要性を認識した。」
- ・ 「風のない日に散布したり、ノズルを使い分けるなど、効果的な使用方法を学ぶことができた。」

■ キュウリの病害虫防除技術研修(2017/10/1)

内容: ①病害虫の特徴、②病害虫の対策

参加者からの主なコメントは以下のとおりであった。

- ・ 「Al Badhan では、べと病、うどんこ病、White fly の被害が大きいですが、本研修で病徴と対策を学ぶことができた。」
- ・ 「同じウリ科の作物の連作を避け、ナス科等の別の科の作物との輪作が効果的であることがわかった。」
- ・ 「使用済みの農業資材の消毒は、次期作の罹病を避けるために重要であることがわかった。」



■ レモンの栽培と剪定技術研修(2017/10/26)

内容: ①カンキツ類の生態、②品種、③植栽間隔と定植方法、
④剪定のメリットと方法、⑤灌漑と施肥、⑥病害虫防除、
⑦生理障害対策、⑧剪定技術の実習

参加者からの主なコメントは以下のとおりであった。

- ・「枝を切ることに抵抗があり、これまで剪定をほとんど実施してこなかったが、剪定のメリットをきちんと知ることができたので、今後は実践していきたい。」



2) Aqqaba Extension Women Sub-group(トウバス県)

■ ゲンデリア栽培技術研修(2017/10/5)

内容: ①栽培環境、②生育の特徴、③栽培カレンダー、④圃場準備、⑤植栽間隔、⑥灌漑、⑦施肥、⑧病害虫、⑨収穫、⑩収量、⑪次期作の準備、⑫採種、⑬市場価格と見込みクロープバジェット

参加者からの主なコメントは以下のとおりであった。

- ・「販売用に収穫するには労働者の雇用が必要になる可能性もある。まずは自家消費用に栽培することからスタートしたい。」
- ・「カップを使用した育苗方法が有効であることを知った。また、根が深く張るため、深耕の重要性を理解した。」



■ 堆肥作成・施用技術研修(2017/10/5)

内容: ①堆肥の利点、②作物の養分吸収の仕組み、③堆肥作成のポイント、④堆肥の種類と熟度、⑤堆肥作成方法

参加者からの主なコメントは以下のとおりであった。

- ・「今までほとんど堆肥を作成した経験がないので初めて知る知識が多かった。」



3) Frosh Beit Dajan Extension Sub-Group(ナブルス県)

■ 灌漑・土壌管理技術研修(2017/10/8)

内容: ①灌漑と施肥の重要性、②化学肥料の種類と効果、③新しい点滴灌漑技術、④化学肥料の NPK(窒素・リン・カリ)の配合量の計算方法、⑤作物による灌漑水の吸収の仕組み、⑥点滴灌漑の水圧の計測方法

参加者からの主なコメントは以下のとおりであった。

- ・「我々は、既に新開発された点滴灌漑チューブを導入し、より効果的な水管理を行っており、灌漑方法よりテンションメーターの使い方や液肥の混合についての研修も実施してほしい。」



■ 堆肥作成・施用技術研修(2017/10/8)

内容: ①堆肥の利点、②養分吸収の仕組み、③堆肥作成のポイント、④堆肥の種類と熟度、⑤堆肥作成方法

参加者からの主なコメントは以下のとおりであった。

- ・「作物残渣を多く含む堆肥材料の場合は、分解を促進させるために窒素肥料を加えた方がよいことがわかった。」
- ・「堆肥は購入すると高いので、自作することで費用を削減していきたい。」
- ・「既に慣行的に未熟家畜糞を投入し、グリーンハウス内で一定期間発酵させてから定植しているため、堆肥投入は不要である可能性も考えられるが、堆肥の効果を確認し、堆肥作成の関連技術を習得することができた。」

4) Al-Musafah Extension Sub-Group(ジェリコ県)

■ 農業資材のグループ購入に係る技術研修(2017/10/12)

内容: ①グループ購入の利点、②成功事例の紹介、③実施手順(参加メンバーの募集、ニーズ把握、見積もり書の入手、業者選定、購入合意、購入・支払い・配分)

参加者からの主なコメントは以下のとおりであった。

- ・「我々のグループは政府の登録グループではないため、グループ購入だけでなく、登録手続きも行っていきたい。プロジェクトでは、そのための研修も実施してほしい。」



5) Bardala Extension Women Group(トウバス県)

■ タイム栽培技術研修(2017/10/22)

内容: ①品種、②病害虫管理、③乾燥調製方法

参加者からの主なコメントは以下のとおりであった。

- ・「タイムの品質に影響するのは、農薬散布による病害虫管理と収穫後の乾燥調製であることがわかった。特に、うどんこ病、べと病、ダニが被害があるので、適切に管理をしていきたい。」



■ 接木キュウリ栽培技術研修(2017/10/22)

内容: ①接木技術の有効性、②接木苗の品質判断のポイント、③栽培適期

参加者からの主なコメントは以下のとおりであった。

- ・「接木苗導入の際には、栽培時期と苗の品質の2点を考慮することが重要であることがわかった。」
- ・「接木苗は耐低温性であり、冬期の栽培に効果があることがわかった。また冬期は低温のため、天日による土壌消毒を行うことができないが、耐病性のある接木苗を利用することで生産性が向上するだろう。」



■ 加工用パプリカ栽培技術研修及び加工工場とのマッチング(2017/10/30)

内容: ①品種、②圃場準備、③灌漑、④施肥、⑤病害虫防除、⑥収穫、⑦乾燥調整と加工

研修では、主要な買取先である農産加工会社の経営者に講義を依頼した。講師は、自らの栽培経験を踏まえ、加工調整技術やマー



ケットについても実践的で有益な

情報を農家に提供した。参加農家は普通パプリカと乾燥パプリカの違いを理解し、①乾燥パプリカはヨルダン渓谷の夏期高温乾燥の気候に適すること、②作物オフシーズンに収入が得られること、③安い水利費である当地の利点が活用できること、④パレスチナでは競合する農家が少ないことなどを理解し、栽培意欲が高まったことが伺えた。参加者からの主なコメントは以下のとおりであった。

- ・「普通パプリカと乾燥パプリカの違いが理解でき、多くの利点があることがわかったので、ぜひ試作栽培したい。」



③ Good Practice Farmer に対するヒアリングの実施と紹介シートの作成

第2サイクルの Awareness Creation Tour(普及ステップ2)に備え、視察先の候補となる Good Practice Farmer の営農状況を追加的に調査した。農業庁マスメディア局、県農業局マスメディア担当者と普及員が農家にインタビューをし、各農家の紹介シートを作成している。

■ 新品種ガバの温室栽培の事例(ジェリコ県)(2017/10/19)

ガバの新品種を導入し、主産地であるカルキリヤ県の農家が通常収穫できない時期に出荷している。

■ ハーブ類の簡易天日乾燥施設導入の事例(カルキリヤ県)(2017/10/23)

簡易な天日乾燥施設を導入し、タイム等の収穫後処理(乾燥)を行っている。ブランド名を付して商品を出荷している。

■ 品種改良による羊乳の通年生産の事例(トゥルカレム県)(2017/10/24)

長年にわたって品種改良を繰り返し、生産性を向上している。人工授精なども組み合わせることにより、羊乳の通年供給も可能にしている。

■ 端境期の食用ブドウ葉生産の事例(ジェリコ県)(2017/10/25)

ヨルダンの品種を導入し、主産地であるヘブロン県が収穫できない時期に、食用ブドウ葉を出荷している。

■ 浅耕型プラウによる耕起作業の効率化の事例(ジェニン県)(2017/10/29)

オーストラリアの協力で開発した浅耕型プラウで耕起作業を効率化し、価格競争力を強化している。

■ 効率的な在来品種のヒヨコマメ・ゴマ生産の事例(ラマツラ県)(2017/11/1)

独自の生産技術を導入し、市場ニーズが高い在来品種ヒヨコマメやゴマを生産している。

■ 改良型養蜂巣箱の導入事例(ナブルス県)(2017/11/2)

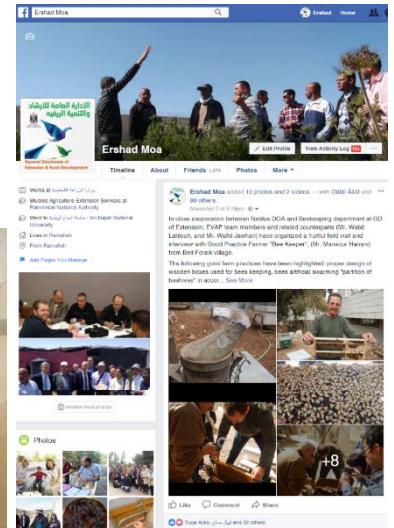
独自の工夫で養蜂巣箱を改良し、生産性を向上している。



④ 農業庁の公式 Facebook を活用したプロジェクト活動の情報発信

パレスチナ農業庁普及・地域開発総局は 2012 年から Facebook を活用した情報発信を行ってきた(アカウント名: Ershad Moa)。EVAP-2 から文章や写真を提供し、記事を掲載してもらっている。また、ヒアリングをしたところ、ヨルダン川西岸地区では、農家世帯の一家に1台はスマートフォンを所有しており、SNS の利用率も高いことがわかった。

EVAP-2 では農民間普及の促進を目指しているが、普及・地域開発総局の Facebook を活用して事例紹介などの情報発信をしてきたところ、農家同士のネットワークも拡大していることが伺えた。例えば、エンドウマメを栽培している農家の事例についての情報発信をしたところ、農家同士が独自に連絡を取り合い、技術を教え合っている事例があった。また、Facebook をみたガザ地区の農家から、普及員経由でヨルダン川西岸地区の農家に連絡があり、エンドウマメ栽培技術の交流をしている事例も見られた。



EVAP-2 の研修後に SNS のアカウント情報を教えあう農民



SNS を通じて連絡を取り合い農薬の情報を聞きにきた農民

普及・地域開発総局の Facebook 公式ページ

⑤ 第 2 サイクル県農業局に対する Awareness Creation Tour(普及ステップ 2)のプレトレーニングガイダンスの開催

県農業局の職員を対象に、Awareness Creation Tour(普及ステップ 2)(グッドプラクティス農家視察ツアー)の実施手順のガイダンスを行った。第 2 サイクルからガザ地区も対象となることから、農業が最も盛んなハーンユニス県を対象にヨルダン川西岸地区と同様の活動を開始した。

- ・ カルキリヤ県農業局(2017/10/2)
- ・ トウルカレム県農業局(2017/10/3)
- ・ ジェニン県農業局(2017/10/4)
- ・ ガザ地区ハーンユニス県農業局(2017/10/17)

Awareness Creation Tour(普及ステップ 2)に係るプレトレーニングガイダンスの内容

1. Awareness Creation Tour のための参加型計画ワークショップの目的
2. Good Practice Farmer の定義と事例の紹介
3. 農家グループ向けのワークショップの実施手順の説明
 - ・ Good Practice Farmer 事例紹介シートを使った事例紹介
 - ・ 参加農家側からの訪問先希望聴取
 - ・ 日程の決定と移動計画の策定
 - ・ 参加希望農家の登録



ガザ地区ハーンユニス県農業局



ジェニン県農業局



カルキリヤ県農業局



トウルカレム県農業局

コラム:EVAP-2 におけるジェンダー配慮の方針とこれまでの成果

1) EVAP-2 におけるジェンダー配慮の 4 つの視点

i) 研修機会・農業インプットへのアクセス改善の視点

パレスチナでは男性グループ、女性グループが別々に存在している傾向が大きい。また、活動への参加機会の公平性を確保するためにはプロジェクトの対象となる農家グループの母集団の性質に合わせて対象者を選定する必要がある。そのため、EVAP-2 では、地域の男女別農家グループの存在比率を踏まえて、対象農家グループも選定している(活動参加機会の公平性)。そのうえで、グループごとのニーズを的確に把握するとともに、知識・技術(プロジェクトによるインプット)が確実に伝わるように留意している(適切な人に適切な研修を提供)。

Awareness Creation Tour および Market Visit は、事前に農家グループによる参加型で活動計画を立てるようにし、参加者が時間や行き先を決めることができるようにしている(受益者参加型の活動計画策定)。また、農繁期を避け、少人数でも集落ごとで実施している。特に女性農民には、炊事の時間は避けたいというニーズがあったため、全ての活動を午前中の 2 時間で完結できる内容としている。また、子供連れでの研修参加を歓迎し、且つ参加者が研修に集中できるように配慮している。新規の技術や作物を導入する場合は、それが女性の営農や経済活動への参加を妨げたり、負担とならないように留意している(女性の研修参加機会の促進)。



プロジェクト対象の女性農家グループ



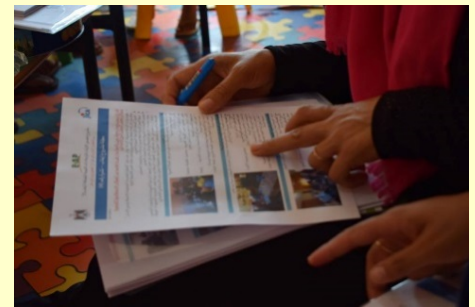
スタディツアーの行き先と日程を決める
参加型ワークショップ

ii) 収益向上に結びつけるための家庭内労働生産性向上の視点

農作業における男女の役割分担の傾向と社会的背景を把握したうえで、「作業負荷軽減・効率性向上」と「生産性向上」に寄与する技術研修を実施している(男女の労働分担の現状把握したうえでの労働生産性の向上)。労働生産性の向上が収益向上に結びつく技術研修の内容を検討するとともに、特に女性農民固有の技術ニーズにも対応した技術研修を実施している。「収益向上に繋がる」ジェンダー配慮)。

iii) 家庭内の意思決定への参加促進のための視点

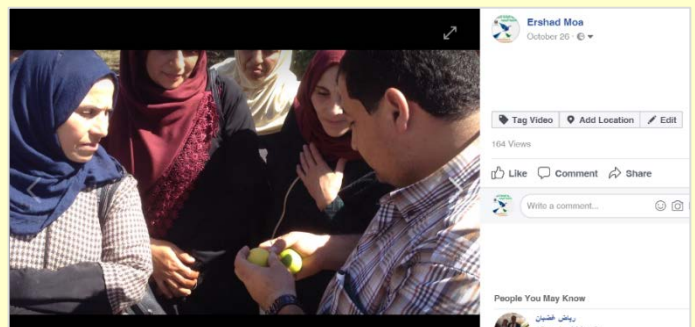
習得した技術・知識、参加者の感想等を掲載したニュースレターを配布する等、家庭内での活動内容の共有とコミュニケーションを促進する機会を提供し、女性(または男性)の意見を営農計画に反映させやすい環境を作ることができるようになっている(家庭内の技術共有・コミュニケーション促進)。



配布されたニュースレターで他の女性農家
グループの活動記事を読む農民

iv) 地域コミュニティの理解醸成のための視点

直接的に女性農民(または男性農民)のみを支援するだけでなく、間接的に男性(または女性)等の関係者の理解醸成の機会も設けている。優良事例や技術研修の内容・成果をまとめたニュースレターを配布したり、農業庁の SNS(記事、写真・動画)を通じてそれらの情報発信を行うことで、地域の男性(または女性)に気づきの機会を与えるよう配慮している(地域全体でのジェンダー配慮の有効性に対する気づきの促進)。



女性農家グループを対象に実施した技術研修の SNS 動画配信

2) EVAP 普及パッケージにおけるジェンダー主流化

上記 4 つの視点を踏まえて、複数の普及活動からなる一連のステップ(EVAP 普及パッケージ)にジェンダー配慮を効果的に組み込んでいる。ステップ毎に活動内容が異なり、ジェンダー配慮の方法も異なる。そのため、個別のジェンダー配慮を活動に効果的に組み込むことで、活動全体としてのジェンダー主流化を目指している(活動ごとのジェンダー配慮の積み重ねによる EVAP 普及パッケージ全体におけるジェンダー主流化)。各普及ステップにおけるジェンダー配慮の方策は次表のとおりである。

表 EVAP 普及パッケージ実施における普及ステップ別のジェンダー配慮策と主流化

普及ステップ	ジェンダー配慮策 (ただし、対象農家グループによって異なり、必要でない場合もある。)	EVAP-2 のジェンダー配慮の 4 つの視点
(1) Willingness and Readiness Confirmation	<ul style="list-style-type: none"> パレスチナでは男性グループ、女性グループが別々に存在している傾向がある。活動への参加機会の公平性を確保するため、<u>母集団である男女別農家グループの存在比率を踏まえて</u>、プロジェクトで対象とする農家グループも選定する。 <u>営農に必要な情報へのアクセス</u>につき、男女別の現況を確認・分析する。 対象メンバー登録の際に性別情報を記載し、<u>参加率等を容易に把握</u>できるようにする。 男女混合グループでは、特に女性メンバーからの意見を引き出し、協議を促進するため、i)協議は <u>男女別に小グループ</u> で行うこと、ii) <u>女性メンバーからの意見を聞き取ることを意識したファシリテーション</u> を行うこと(女性メンバーを意識的に指名するなど)、iii) <u>男女の普及員をファシリテーターとして配置</u> すること等を考慮する。 	① 研修・インプットへのアクセス改善 ④ コミュニティの理解醸成
(2) Awareness Creation Tour (3) Market Opportunity Finding	<ul style="list-style-type: none"> <u>市場志向型農業を実践している女性農家</u> (小中規模農家で労働力軽減等も含む。)を、対象女性農家グループだけでなく対象男性農家グループの訪問先候補に含める(男性農家グループの場合は女性農家グループを候補に含める。) <u>女性農民の参加促進、活動への集中のための方策</u> を適用する。例えば、以下の方策が考えられる。 <ul style="list-style-type: none"> 参加しやすい日時及び訪問場所 を選択する。 準備ワークショップ場所として、可能な限り <u>村落内の場所</u> を選択する。 子供同伴での参加歓迎を告知する。そして、子供向けに塗り絵・玩具等のブロック等の遊び道具を準備し、<u>参加者が活動に集中できるように</u> する。 <u>男女両方の普及員</u> が同行する。 移動の際の <u>車両を男女別々に</u> する。 	① 研修・インプットへのアクセス改善 ② 家庭内労働生産性向上 ③ 意思決定への参加促進 ④ コミュニティの理解醸成
(4) Farming Improvement Planning with Extension Needs Identification	<ul style="list-style-type: none"> i) <u>農業生産活動の各工程に男女どちらが従事している傾向が強い</u>かを確認、ii) <u>従事状況の男女差異の要因・問題</u> を議論、iii) <u>適切な対象者及び研修内容</u> を検討するため、“Activity Profile by Gender(世帯内労働力分析)”の演習を実施する。 その結果を踏まえて、研修ニーズの特定、営農改善計画の策定を行う。特に、<u>女性農民の労働負荷、生活サイクル、不足している知識・技術</u> 等に着目して計画を策定する。 <u>営農改善計画における意思決定者への効果的な情報共有及び働きかけの方法</u> についての議論を行う。 上記ステップと同様に、<u>女性農民の研修参加促進、研修への集中のための方策</u> を適用する。 	① 研修・インプットへのアクセス改善 ② 家庭内労働生産性向上 ③ 意思決定への参加促進 ④ コミュニティの理解醸成
(5) Farm Record Keeping (6) Extension Activities for Farming Improvement	<ul style="list-style-type: none"> <u>とくに女性農民の労働負荷、生活サイクル、不足している知識・技術</u> 等に着目して技術研修を実施する。 上記ステップと同様に、<u>女性農民の研修参加促進、研修への集中のための方策</u> を適用する。 	① 研修・インプットへのアクセス改善 ② 家庭内労働生産性向上 ③ 意思決定への参加促進 ④ コミュニティの理解醸成
(7) Profitability Assessment (8) Joint Evaluation	<ul style="list-style-type: none"> 男女農民のそれぞれの営農記録に基づき、EVAP 普及パッケージ実施により提供された <u>情報と技術の効果</u>を男女別に<u>評価</u> する。 Joint Evaluation では、<u>情報と技術の男女間の格差の解消度合い</u>に着目した評価も行い、農業普及における女性または男性のエンパワーメントの効果を評価する。 	① 研修・インプットへのアクセス改善 ② 家庭内労働生産性向上
共通事項	<ul style="list-style-type: none"> 各ステップの活動はニュースレターとして取り纏め、対象農民に共有する。農業庁(MoA)が主体となり Facebook でも活動を発信する。これらを通じて、<u>男性農民の女性グループの活動への理解、また女性農民の男性グループの活動への理解</u>を促す。 ニュースレターや SNS への写真の掲載については、被写体となっている農民に掲載許可を得る。 	④ コミュニティの理解醸成

3) EVAP-2におけるジェンダー配慮のこれまでの成果と有効性

- 対象地域における男性グループと女性グループの存在する割合を考慮して、対象農家グループをそれぞれ選定した。その結果、Awareness Creation Tour 及び Market Analysis の活動において、農家グループが選定した訪問先で男女それぞれのグループで違いが見られ、**営農において認識している課題が異なることがわかった**。双方のグループのニーズを的確に把握することができたと考えられ、パレスチナにおけるその選定方法の有効性が示唆された。例えば、次表のとおり、それぞれの農家グループが選定した Good Practice Farmer (市場志向型農業を実践している小中規模農家)の視察ツアーの行き先にそれぞれ傾向があることがわかった。

表 第1 サイクルの男女別農家グループのスタディツアーの視察先の選定結果とその傾向

種別	選定されたスタディツアーの主な行き先	傾向
男性農家グループ	<ul style="list-style-type: none"> ● 小型キュウリの吊り栽培 ● 投入資材のグループ購入 ● 成育ステージに合わせたヒツジの飼育 ● 在来カボチャの栽培 	エンドウマメやキュウリといった規模や労働投入が大きく収入総額が大きい栽培体系に関心が高いことが伺えました。
女性農家グループ	<ul style="list-style-type: none"> ● ゲンデリア(ハーブの一種)の栽培 ● タイム(ハーブの一種)の栽培 ● 農産物を使った学校給食ビジネス ● チーズの加工・販売 	労力がかからず小規模で栽培できるハーブや空いた時間を有効に活用できる農産加工に関心が高いことが伺えました。
男女農家グループ共通	<ul style="list-style-type: none"> ● エンドウマメの吊り栽培(男女共通) ● トマトの抑制栽培(男女共通) ● 紫ニンジン栽培(男女共通) 	-

- 一般に営農計画に必要な情報として、市場情報、栽培技術情報、気候・自然環境情報、支援プログラム(補助金や優遇政策)の情報、農業資材の情報、農業金融の情報、営農記録、労働力・所有する資機材の情報などがあるとされている。ニーズ把握の過程を通じて、**男性農民と女性農民の間で「営農に必要な情報の格差」があることがわかり**(次図)、それが**営農における意思決定にも影響していることが伺えた**。EVAP-2 では、それらの**情報格差を埋めるという視点**で、技術研修の内容を検討している。



都市部の青果店で情報収集する女性農家グループ

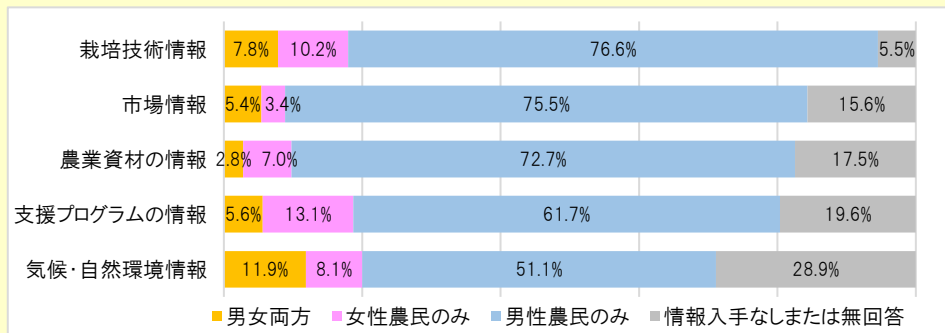


図 対象農家グループの世帯における男女別の営農情報の入手者 (回答者:第1 サイクルおよび第2 サイクルの167 世帯)

- 農作業における男女の役割分担の傾向とその背景を把握するための演習を実施したところ、地域によってはイスラエルへの出稼ぎや農業以外の就業によって男性農民が不在になる場合が多く、**慣習的な役割分担が変容していることがわかった**。例えば、従来は農薬散布は男性農民が担当することが多かったが、ここ数年は女性農民も農薬散布に関わるものが多くなってきているため、技術研修を実施してほしいというニーズが女性グループから挙げられた。EVAP-2 では、パレスチナの社会的背景の変化による役割分担の変容も踏まえつつその変化に対応するため、



女性農家グループからの提案に基づいて実施した農薬散布の技術研修

慣習的な役割分担の固定化に起因して生じている技術格差を埋めるための研修も実施する方針である。

- 上項 2 点を踏まえ、EVAP-2 における女性農民のエンパワーメントとは「慣習によって生じている男女間の営農に必要な ①情報格差と②技術格差 を埋めること」と位置づけ、技術研修を実施している。また、それが長期的な営農計画への意思決定参加と持続的な農業収益向上に繋がると考えている。
- 市場ニーズが大きいユウガオは早朝に開花するため、特定の時間で受粉作業を行う必要があることがわかった。炊事の時間と重なる可能性があることを女性農家グループに助言したところ、生活サイクルを変える必要があるため導入したくないとの意見があった。市場価格が高いからといって、必ずしも女性農家グループの関心があるとは限らず、女性農民にとっては儲かるかどうか、といった視点以外にも配慮すべき要素があることがわかった。
- 育児をしている女性農民が研修に参加することを歓迎することを告知し、一緒に参加した子供たち達のためのぬりえやめいろうを提供することで、参加した女性農民が研修に集中できるように配慮した。その結果、研修の時間は子供達はそれらに集中し、参加者も研修に集中することができ、内容をよく理解できたとのコメントが得られた。
- 対象農家にジェンダー配慮の有効性に係る気づきの機会を与えるため、他のグループの活動を共有できるようにニュースレターを配布したり、SNS を通じて情報発信を行っている。また、農作業における役割分担を整理する演習を設けている。それらの結果、男性農家グループ側から、地域の女性農民に対しても他の女性グループに対して実施したような技術研修を実施してほしいとの提案があった。プロジェクト側からジェンダー配慮を強制するのではなく、農家グループ側からジェンダー配慮策を提案してきたことは非常に大きな成果である。その提案を踏まえ、技術研修を実施していく予定である。
- EVAP-2 では市場志向型農業を実践している中小規模農家 (Good Practice Farmer) を視察する Awareness Creatuion Tour を実施し、農民間普及を促進している。その活動を通じて、必要な時に情報を共有し、助言をしあえる同じ立場にある女性農民グループ間のネットワーク構築も効果的であることがわかってきた。今後は、その有効性を確認していくとともに、効果的なネットワーク構築方法についても検討していく予定である。
- プロジェクトで対象としている農家グループには、女性農民以外に社会的配慮が必要な農民として、小作農、ベドウィン系農民、若手農民も存在することがわかった。ジェンダー配慮と同じレベルで、これらの農民が、営農計画における意思決定に参加でき、適切にプロジェクトの便益を享受できるように配慮していく方針である。



ユウガオの受粉作業について
ヒアリングをする女性農家グループ



研修会場の隅でぬりえに集中する子供



地域の女性農民に対する技術研修を
提案してきた男性農家グループ



他県へのスタディツアーで電話番号を
交換している女性農民